

令和3年度 北海道総合教育大綱

基本理念 「チャレンジを応援する北海道」

求められる人間像 「夢や課題に、新たな発想で挑戦する人」

「ふるさとを愛し、グローバルな視点で地域の発展のために行動する人」

「互いの個性や文化の違いを尊重し、ともに力を合わせる人」

基本方針Ⅰ 「新たな社会を生きる力を育む」 **基本方針Ⅱ** 「子供の学びと成長の環境を整える」

基本方針Ⅲ 「地域と産業を担う人を育む」 **基本方針Ⅳ** 「生涯を通じて学び続ける人を育む」

令和3年度 日高管内教育推進の重点

～全ての子供のよさや可能性を引き出し、持続可能で豊かな地域社会の創り手を育む日高教育の創造～

重点1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

- 子供の特性や学習状況等に応じた「個別最適な学び」の充実
- 子供一人一人の考えを広げ、深める「協働的な学び」の充実
- これまでの実践とICTとの最適な組合せの実現

重点2 学校マネジメントの強化による「働き方改革」の推進

- 全員参画による「働き方改革」に向けた体制整備の推進
- 連携と分担による学校マネジメントの実現
- 地域とともにある学校への転換

重点3 新しい時代の日高教育を創り出す教職員の育成

- キャリアステージに応じた資質・能力の育成
- 新たな課題に対応する力の向上
- 多様な人材等と連携・分担して課題解決に取り組む力の向上

令和3年度 新ひだか町学校教育の目標と重点

新ひだか町教育の基本目標

町の将来を支える心豊かな人づくり

子供たちが豊かな心を持って学ぶことができるよう、よりよい教育環境づくりを進めるとともに、地域文化の保存・伝承や、生涯学習機会の確保・充実に努めながら、地域を支える人づくりを進めます。

学校教育推進の重点

未来に生きる力の育成

- 主体的・対話的で深い学びの展開（町の学びのスタンダード、教育のデジタル化対応）
- 指導の改善に生きる評価の実施（個の学びの検証改善、資質・能力に基づく目標設定、子供と教師による授業評価）
- 家庭学習と補充的学習の充実
- 外国語（英語）教育の充実
- キャリア教育の充実（人材活用）

豊かな心と健やかな体の育成

- 「特別の教科 道徳」（道徳科）の充実（授業実践と評価）
- 望ましい家庭生活習慣の確立
- 体力・運動能力向上の取組の充実
- 特別支援教育の充実
- 健康安全教育の充実（新しい生活様式に基づく感染対策、食育）
- いじめ等問題行動への取組の充実
- 不登校の解消に向けた取組の充実

学校力・教師力の向上

- 学校組織の活性化（研究指定事業の取組）
- カリキュラム・マネジメントの充実（教科横断的視点、新学習指導要領に基づく実践、教育のデジタル化の推進）
- 学校間・地域間連携（学校間連携）

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の徹底 ※「適応指導教室」新設検討

※「主体的・対話的で深い学び」のある学習指導の研究実践 ※教育のデジタル化に対応した研究実践

※地域の教育資源の教材化による体験的な学習指導の研究実践

「北海道の教育理念」、「日高管内教育推進の重点」、「新ひだか町学校教育目標」を踏まえ、本校の教育目標の具現化を図ります。そして、『一人一人の子供たちの幸せのために』という基本理念のもと、予測不能な変化の激しい未来を、たくましく生き抜く力の素地を、学校・家庭・地域が一丸となって育成します。また、職員の働き方を見直し、働きがいがあり、かつ、働きやすい学校づくりを行います。さらに、「学校の新しい生活様式」に基づく新型コロナウイルス感染予防対策の徹底と教育課程の工夫による学びの保障を図ります。

基本理念

一人一人の子供たちの幸せのために

- それは子供のためになっているか、そこに教育はあるか
- 働きがいがあるか、働きやすいか

※教師の道を志した新採用の頃の気持ちを忘れてくはない。何のために教師になったのか。

※真の動機付けは内発的であるべきです。「自分の指導は子供のためになっていたのか」「もっと違うやり方がないか」「さらによくする方法はないか」「学校や同僚のために自分にできることはないか」と内へ矢印を向けたい。その謙虚な姿勢が教師を成長させる。常に学び続ける姿勢が教師を成長させる。教師の成長は、必ず子供たちの成長につながる。

※子供に寄り添い、ありのままを受け止めることから教育は始まる。一人一人にしっかり目を向けて、その子その子の持ち味が大切にされる「みんなちがって みんないい」の姿勢を大切にしたい。

※「私たちは、子供の未来にふれている。そして、世界の未来にふれている。」そのことに誇りと自覚を持ち、一人一人の子供たちの幸せを願い、職務にあたりたいものである。

学校教育目標

よく考え進んで学ぶ子供

- 他人の意見をよく聞き、自分の考えと比べながら、進んで発表し学習に取り組むことができる。
- 文化遺産や歴史を大切に受け継ぎつつ、意欲的に新しいものを見つけ作り出していくことができる。
- 問題意識を持ち、よく考え判断し、自分の考えをわかりやすく伝えることができる。

明るく心の豊かな子供

- 相手を大切にし、多様な考えを認め尊重することができる。
- きまりを守り、よりよい学校生活を考え行動することができる。
- 相手のことを考え、気持ちのよい挨拶やふさわしい言葉遣いができる。

じょうぶでたくましい子供

- 生命の大切さを自覚し、常に安全に気を付けて明るく生活することができる。
- 協力して最後までねばり強く物事をやり遂げることができる。
- 進んで体を動かし、健康を維持することができる。

目標とする子供の姿（教科等横断的な資質・能力）

※年度末校内研修「令和2年度重点資質・能力の振り返り」を受けて、今年度の重点に設定。

【知識・技能】

- A 言語（話す、聞く、読む、書く）の基礎的な力 R 3 重点
- B 情報を活用する力
- C 進んで体を動かし、健康を維持する力

【思考力・判断力・表現力】

- D 自分で選び決定する力
- E 考えをまとめる力 R 3 最重点
- F 考えをわかりやすく伝える力

【学びに向かう力・人間性】

- G 自ら人とつながろうとする力
- H 多様な考えを認め尊重する力 R 3 重点
- I あきらめずに取り組み続ける力

目標とする学校の姿

- J 安心・安全できれいな学校 R 3 重点

※2年前の事故を受けた交通安全指導と新型コロナ感染予防対策の徹底を意識し、重点に設定。

- K 笑顔があふれ、明るいあいさつが交わされる学校
- L 保護者や地域と共に子供を育てる学校

目標とする教師の姿

- M 自ら研修に励み、授業改善に取り組む教師 R 3 重点

※新学習指導要領に基づく授業改善をさらに充実させるために、重点に設定。

- N 子供に寄り添い、共に成長する教師
- O 働き方を意識し、組織的に取り組む教師

重点キーワード

「言語」 「◎まとめる力」 「多様性」

「安心・安全」 「授業改善」

方策1 確かな学力の育成プラン

実態・課題

- 【R2】『全国学力調査』平均正答率（国61%、算59%）、「読解力」「条件に応じた説明する力」に課題が見られた。
- 【R2】『CRT』2観点得点率（1年国63%算67%、2年国65%算61%、3年国53%算57%理63%、4年国59%算46%、5年国5%算41%理64%、6年国62%算65%理71%）2観点ともに努力が必要な児童が多くみられる。 ※2観点「知識・技能」「思考・判断・表現」
- 主体的な学びを生み出すための工夫「課題の必然性」「ふりかえり6観点」の全校取組を開始した。
- 対話的な学びや、思考を深める学びを生み出すための工夫「思考ツール」の全校取組を開始した。
- 「深い学び」「学びの定着」「個に応じた配慮」を生み出す授業改善の必要性を感じている。

数値目標

- 【R3】『全国学力調査』平均正答率65%以上。「読解力」「条件に合わせた説明力」の向上。
- 【R3】『各単元末テスト』平均正答率85%以上。
- 【R3】『CRT検査』平均正答率70%以上。
- 【R3】『改善の方策①～⑧』職員自己評価達成率80%以上。
- 【R3】『学力向上に関する学校評価アンケート（保護者・児童）』達成率80%以上

改善の方策

- ①学習指導要領に基づき「何ができるようになるか（目標・観点・評価）」を明確にした授業を行う。 **※研修・教務**
 - ★観点別評価の充実
 - ★「教員の教科書としての学習指導要領」
- ②「高静小の資質・能力」を意識した教科等横断的指導を日常的に行う。 **※研修・教務**
 - ★教育課程（日常授業）への落とし込み
 - ★重点資質・能力
 - ★学級経営案や各種計画への反映と実践・評価・改善
- ③主体的・対話的で深い学びによる授業改善を行う。 **※研修**
 - ★交流ツール、考えなくなる課題
 - ★研修テーマ実践
 - ★「見通しの共有」と「ふりかえり6観点」の日常的取組
- ④「話す・聞く・読む・書く」の基礎・基本を定着させる指導を行う。 **※研修**
 - ★全教育活動における重点指導
 - ★読解力
- ⑤個に応じた支援や補充学習、ユニバーサルデザイン教育を充実させる。 **※子供支援**
 - ★放課後等補充学習
 - ★全ての子が学びやすいUDによる教室環境整備
 - ★合理的配慮
 - ★T T・教科担任の活用
- ⑥ICTを活用した授業を推進する。 **※研修・教務・推進教師**
 - ★タブレットPCを活用した授業推進（主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びを生み出すツール）
 - ★プログラミング
- ⑦「高静小の学習ルール」を徹底し、落ち着きとメリハリのある授業を行う。 **※教務・指導**
 - ★全学級共通指導
 - ★毅然とした指導（威圧的な指導ではなく、ぶれない指導）
- ⑧各種調査・テストに数値目標を定め、結果分析を基に課題分野を重点指導する。 **※研修・推進教師**
 - ★課題の共通理解と授業改善の具体化
 - ★全教員による組織的取組（自校採点、結果分析、重点取り組み）
- ◎各職員が考えたオリジナルプラン

方策2 健やかな心身の育成プラン

実態・課題

- 【R2. 11月】『いじめアンケート』において「いじめはしてはいけない」の回答率85%。
- 【R2】『新体力テスト』において「全身持久力」「疾走能力」「俊敏性」に課題が見られた。
- 明るく伸び伸びした児童が多い。また、生徒指導上の大きな問題が少なく落ち着いている。
- 異学年間の交流の少なさ、高学年の委員会活動全員参加保障に課題が見られた。

数値目標

- 【R3】『いじめアンケート』において「いじめはしてはいけない」の回答率を100%にする。
- 【R3】『新体力テスト』において苦手3種目の向上。
- 【R3】『改善の方策⑨～⑯』職員自己評価達成率80%以上。
- 【R3】『心身の育成に関する学校評価アンケート（保護者・児童）』達成率80%以上

改善の方策

⑨カウンセリングマインドにより、すべての子供が安心して生活できる学校をつくる。【※指導】

★受容的・共感的な姿勢 ★「ほっと」の全校取組 ★あたたかな言葉と表情 ★体罰や暴言は絶対に許さない

⑩日常的に安全点検、整理整頓、清掃を行い、楽しく気持ちよく過ごせる環境をつくる。【※指導】

★毎月の安全点検 ★清掃活動充実 ★落書き等を見逃さない ★新体力山オープン ★休み時間共に遊ぶ

⑪自他の命を大切にすることを繰り返し指導する。【※指導】

★交通安全ミニ集会 ★道徳科の重点指導 ★食育の充実 ★コロナウイルス感染予防対策の徹底 ★避難訓練の工夫

⑫教職員が手本を示し、気持ちの良い挨拶、場に応じた言葉遣いを指導する。【※指導】

★率先垂範（教職員が手本を示す挨拶、言葉遣い） ★児童会の取組

⑬道徳教育の充実により、違いを認め、いじめは許さないことを徹底指導する。【※指導】

★いじめ未然防止（いじめは許さないを100%に） ★多様性（みんなちがって みんないい）の指導（重点資質・能力）

★別業を活用した道徳教育の推進 ★考え議論する道徳の時間の充実 ★重点内容項目複数回指導

⑭異学年等による活動の充実と、全教職員で児童を育てる意識を向上させる。【※指導】

★縦割り班清掃 ★高学年全員による委員会活動 ★学年主任を中心に学年間・異学年間の報連相充実 ★集団活動の充実

⑮通級指導、特別支援教育の各種連携体制を充実させる。【※主幹・子供支援】

★コーディネーターを中心とした組織的取組 ★「個別の教育支援計画・指導計画」のPDCA ★通級指導の整備

⑯体力向上1校1実践の日常的取組を充実させる。【※指導】

★苦手3種目（走力・持久力・敏捷性）の克服に向けた取組継続 ★新体力テスト全学年全種目実施と分析

◎各職員が考えたオリジナルプラン

方策3 組織・働き方の改革プラン

実態・課題

- 【R2後期10～2月】『働き方ガイドライン（月残業45時間以内）』達成率78%、平均残業時間21時間10分。
- 異学年の様子の情報共有に課題が見られた。
- R2後期において、中間評価結果を受けた学校改善を、プロジェクトチームにおいて組織的に推進することができた。
- 年度末評価を受けてR3分掌業務の見直しを行った。コンセプトは「より組織的に、より機能的に、より人材育成的に」。

数値目標

- 【R3】『働き方ガイドライン（月残業45時間以内、年間360時間以内）』達成率100%。
- 【R3】『定時退勤日』を月2回確実に実施。
- 【R3】『改善の方策⑰～⑳』職員自己評価達成率80%以上。

改善の方策

- ⑰学校運営方針や子供の情報等を常に共有し、組織的な対応を行う。【※教頭・主幹・指導】
 - ★ヒヤリハット ★組織的生徒指導 ★効率的会議の仕組 ★決めた事の徹底 ★校務運営委員会や学年主任委員会の活用
 - ⑱自分にできることは力を存分に発揮し、できないことは周りの力を借りる。【※全員】
 - ★お互い様精神 ★各自の持ち味 ★効率的な仕事（量より質で） ★困り感の公開・共有と組織対応 ★分掌見直し
 - ⑲子供によいと思うことは新たにチャレンジし不要なことは精選する。（安易な前年度踏襲をやめる）【※全員】
 - ★「子供のためになっているか」を判断基準 ★ウィズコロナの視点による教育課程実施や柔軟な対応
 - ⑳互いに声を掛け合い、居心地の良い職員室を一人一人がつくる。【※全員】
 - ★職員間の「あいさつ」「礼儀」 ★学校・組織のために自分は何ができるか（経営参画意識） ★職員ロッカー室整備
 - ㉑メンターとメンティーが共に成長できる研修を充実させる。【※主幹・研修】
 - ★3つのメンター研修 ★初任段階教員育成計画
 - ㉒各自のキャリアステージを見据え、主体的な研修を充実させる。【※研修】
 - ★自己向上意識、プロとして ★授業で勝負できる教師になるために ★研修成果の交流
 - ㉓学校教育活動の向上につながる学校評価を充実させる。【※校長・教頭・主幹】
 - ★グランドデザインとのリンク ★年2回評価改善
 - ㉔社会の常識は、学校の常識として自らの行動で示す。（法令遵守、服装、電話・来客対応）【※全員】
 - ★法令遵守研修 ★相手意識（電話、来客、服装）
- ◎各職員が考えたオリジナルプラン

- ※出退勤時間・日課表の変更
- ※定時退勤日（月2回）
- ※児童玄関開錠時刻（8：00）継続
- ※勤務割り振りの積極的活用
- ※勤務時間管理と周知
- ※夏冬休みの学校閉庁日設定
- ※年休を取りやすくための会議曜日変更（金曜から木曜へ）

方策4 開かれた学校の推進プラン

実態・課題

- 【R2後期】『家庭学習目標時間（学年×10分以上）』達成率65%。
- 【R2.12.16】学校運営協議会を設立した。
- 幼稚園保育所との授業参観や懇談などの連携開始。中学校との連携は十分でない。
- 【R3.2】新しいホームページの運用を開始した。

数値目標

- 【R3】『家庭学習目標時間（学年×10分以上）』達成率80%以上。
- 【今年度中】中学校との連携開始。
- 【R3】『改善の方策⑳～㉓』職員自己評価達成率80%以上。
- 【R3】『開かれた学校に関する学校評価アンケート（保護者・児童）』達成率80%以上

改善の方策

- ㉔PTAおよび地域関係機関、学校運営協議会等との連携を密に行う。【※校長・教頭・主幹・教務】
★学校運営協議会との連携（方針承認、地域と共に子供を育成、各種協力依頼など） ★開校150年式典実行委員会設立
- ㉕学校や学級のことを通信・ホームページ等で発信し、理解と協力を得る。【※教頭・主幹・各分掌】
★相手意識 ★HPの日常更新 ★さくらメール活用 ★基本情報の可視化（保存版パンフレット）
- ㉖地域と連携した学習活動を推進させる。（地域教材活用、地域ボランティア協力依頼）【※教務】
★地域人材や教材の活用
- ㉗全ての教員が自らの授業を積極的に公開する。（研究授業、各訪問、参観日、その他）【※研修・教務】
★全員授業公開 ★分散参観日（予定） ★管理職授業観察 ★公開研究会の実施
- ㉘学校と家庭の学びをつなぐ「家庭学習の質と量」を確保するための手立てを行う。【※研修・推進教師】
★「家庭学習のしおり」主体的な学びを生み出す仕掛け ★強化週間（提出率アップ）
- ㉙幼保中や町内他小学校との情報交流を密に行い、それぞれとの連携を深める。【※教頭・主幹・教務】
★スタートカリキュラムの活用 ★授業参観交流（幼保中） ★高校との連携模索 ★学校統合に向けて ★キャリアパスポートの検討
- ㉚各職員が考えたオリジナルプラン